

危機管理室の運用改善

大規模自然災害における危機管理室の運用改善を実現する

コントロールルーム管理システム (CMS)

2011年の東日本大震災をはじめ、2014年の御嶽山噴火や2015年の関東・東北豪雨、2016年の熊本地震など近年の日本では大規模な自然災害が多発しております。大規模災害リスクが高まる中で、地域住民や従業員、自治体・企業内の各種システムの安全を確保するためには、正確な情報収集と情報共有が重要となってきています。

CMSは、危機管理室の映像管理と情報共有に最適なBARCO社製コントロールルーム管理システムです。多様なベンダー機器をインプットノードに接続し、IPネットワークに取り込み、CMSサーバにコンテンツとして登録します。登録されたコンテンツはネットワーク上のどこからでも運用シーンに応じ呼び出し、アウトプットノードに接続したディスプレイに表示します。

CMSにより、組織、場所を越えた監視映像の利活用を促し、危機管理体制の強化を実現します。

【危機管理室の現状と課題】

危機管理室の課題としては、

- ・別フロア、別拠点などで共有が困難
- ・操作や保守業務が複雑で熟練が必要
- ・カスタム開発費が大きく予算化が困難

などがあり、監視システムを組織全体で有効に活用するためには、これらの課題を解決する必要があります。

【CMS導入のメリット】

CMSを導入することで

- ・IPネットワーク上の動画や画像コンテンツであれば、ベンダーの制約なしに、汎用のディスプレイやプロジェクタを使用可能
- ・運用方法とシステム構築費が連動せずに、低



写真1 コントロールルーム管理システム



写真2 レーザーリアプロジェクタ

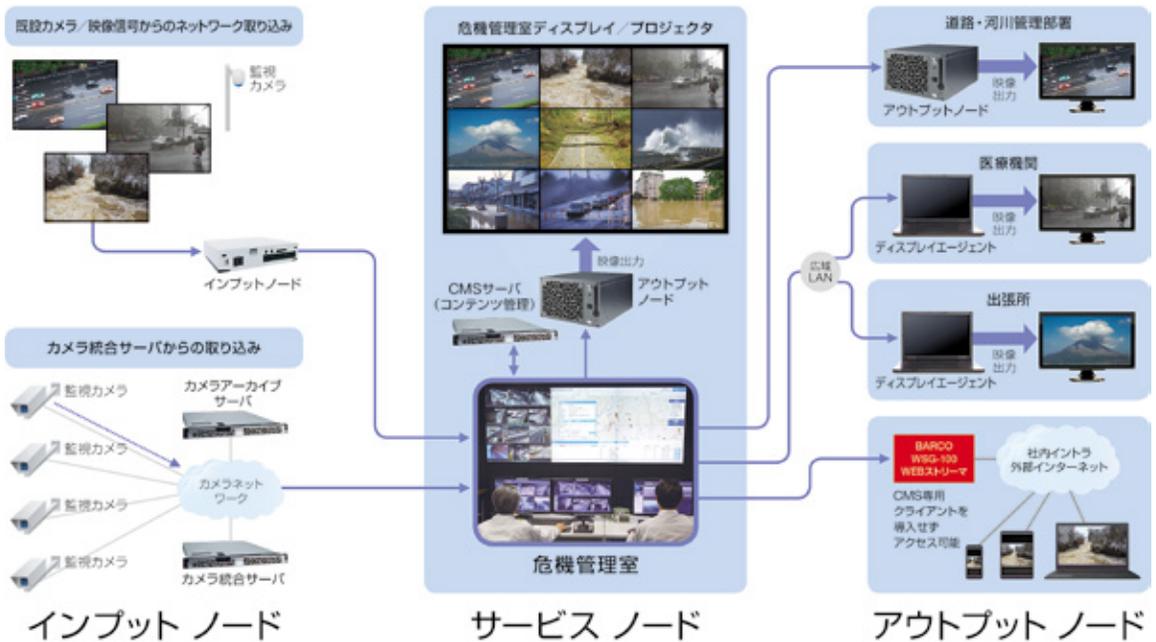


図1 CMS構成図

コストで柔軟なシステム構築が可能

- ・各映像ソースごとの個別回線が必要なく、集線化が可能
- ・既存の監視カメラシステムを流用できる汎用性の高いシステムである

などのメリットにより、既存システムの課題を解決します。

【導入事例（静岡県建設局道路部道路保全課様）】

静岡市道路保全課様では、以前より監視カメラ等による監視システムを導入されていましたが、地震や台風など大規模災害への道路保全業務の効率化が課題となっていました。

そこで昭電より、本庁舎内の監視センターに大型ディスプレイを設置し、IPネットワークを活用したカメラ映像共有システムを新たにご提案し、ご採用いただきました。

採用された際に、最も高い評価を受けた点として「昭電の提案は、他社よりコストが優れ、ユーザビリティが高かった。例えば大型ディスプレイ

で映像が見られるだけではなく、ネットワークにより各拠点間や部署間で映像情報が共有でき、システムの自由度も高かった。また、他社製では新たにシステム開発する必要があったため開発コストがかかってしまうところ、昭電の提案は汎用性が高く、システム上、生かせる部分を生かすことができ低コストに抑えられた」などがあげられます。このようにお客様より高い評価を頂いております。

詳しくは昭電ホームページ「CMSスペシャルコンテンツ」をご参照ください。

<https://www.sdn.co.jp/special/cms/>



株式会社昭電 事業推進部

〒130-8543
 東京都墨田区太平4-3-8
 TEL 03-5819-8373 FAX 03-5819-8379
 Mail:f@sdn.co.jp
<https://www.sdn.co.jp>